

演題名：本邦の外科専門医研修における男女差・家庭環境：全国アンケート調査報告

[演者] 渡部 純:1, 石田 苑子:2

[共同演者] 松尾 知平 3, 渡邊 元己: 4, 喜安 佳之: 5, 小西 孝明:6, 須田 千秋:7, 高木 弘誠: 8, 高村 卓志:9, 谷河 篤:10, サシーム パウデル:11, 東 陽子:12, 藤川 善子:13, 坊岡 英祐:14, 齊藤 光江:15

1. 自治医科大学消化器一般移植外科
2. 北播磨総合医療センター外科
3. 筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科
4. 大阪市立総合医療センター肝胆膵外科
5. 京都大学消化管外科
6. 東京大学乳腺内分泌外科
7. 佐久医療センター救命救急センター
8. 岡山大学消化器外科学
9. 藤沢湘南台病院外科
10. 東北大学病院高度救命救急センター
11. 恵佑会札幌病院外科
12. 東邦大学医学部外科学講座呼吸器外科学分野
13. 深見台中央医院
14. 浜松医科大学外科学第二講座
15. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

【背景】 本邦では若手女性外科医の割合は増加している。一方、女性外科医は男性外科医よりも手術経験数が少なく、家事/育児に費やす時間が大幅に多いことが報告されており、男女間、子どもの有無で外科修練プログラムの実態が異なる可能性が懸念されている。

【目的】 性別および子どもの有無が、外科専門医研修に与える影響を明らかにする。

【方法】 令和 3-4 年度の外科専門医試験合格者全員を対象にオンラインアンケート調査を実施した。外科修練医の男女と子どもの有無で外科専門医研修の実態を比較した。グループ間の比較は、連続変数については Mann-Whitney 検定、カテゴリー変数については χ^2 検定を用いて行った。 $p < 0.05$ を有意とした。

【結果】 回答者は 757 人中、女性 194 人 (25.6%)、男性 563 人 (74.4%)。男女間で、年齢層、医局所属有無に差はなかった。女性修練医は男性修練医に比べて、既婚者 (57% vs 80%、 $p < 0.01$)、子どもがいる (25% vs 48%、 $p < 0.01$) 割合は低く、配偶者の勤務状況は常勤の割合が多かった (85% vs 42%、 $p < 0.01$)。男女別で専攻するサブスペシャリティの割合は、女性修練医は乳腺外科 (34%)、男性修練医は消化器外科が多かった (59%)。修練プログラムの選択に最も影響を与えた項目に関して、女性は診療科の雰囲気良さ (28%) である一方、男性は出身大学 (23%) だった ($p = 0.02$)。男女、子どもの有無で、全身麻酔執刀数、論文執筆数、修練プログラムに対する満足度に差はなかった。女性修練医は男性修練医に比べて、当直回数は少なく (中央値 4 回 vs 5 回、 $p < 0.01$)、超過勤務が月 80 時間未満の割合が高かった (41% vs 31%、 $p = 0.02$)。子どもがいる女性修練医は子どもがいない女性修練医に比べて、当直回数数は少なく (中央値 4 回 vs 5 回、 $p = 0.02$)、超過勤務が月 80 時間未満の割合は高かった (55% vs 36%、 $p = 0.04$)。一方、男性修練医は子どもの有無で、当直回数、超過勤務時間は変わらなかった。女性修練医は男性修練医に比べて、子どもの有無に関わらず、年収は低かった (平均 757 万 vs 982 万円、 $p < 0.01$)。

【結語】 外科修練期間において、男女間で、執刀数、論文執筆数に差はなかった。一方、労働実態については性別間で差がみられ、子供の有無が女性修練医の働き方に影響を与えている事が示唆された。技術的・学問的な外科修練の機会は男女問わず提供されている事が裏付けられた一方、働き方については改善の余地があると思われた。